別紙

岐阜農林事務所の普及活動状況　令和５年６月２６日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■担い手　新規農業参入者の営農・資金計画作成を支援

【支援会議の様子】

農林事務所は６月９日、山県市において新たに農業参入を予定している法人経営体に対する営農・資金計画の作成支援会議を開催した。

当日は山県市、日本政策金融公庫、岐阜県信用農業協同組合連合会の担当者が参加し、営農開始５年目までの営農計画を踏まえた経営収支について検討を行うとともに、施設整備に伴う農業制度資金の活用と償還見通しについて協議し、経営安定に向けた損益分岐等に関する情報を共有した。

今後、農林事務所は山県市で進められる認定新規就農者の青年等就農計画の作成協力を進めていく。

（地域支援第一係・佐藤　秀人）

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■小麦　タマイズミＲ実証ほの収穫実施

【収穫作業の様子】

岐阜管内では水田を有効活用するための戦略作物として、準硬質小麦「タマイズミ」が栽培されている。農林事務所では「タマイズミ」の高位安定生産のため、適期播種、追肥の施用、赤かび病防除について指導を行っている。しかしながら、「タマイズミ」はコムギ縞萎縮病に罹病性であり、岐阜地域の一部ほ場では生育抑制等の被害発生が確認され、単収低下の原因となっている。このため、コムギ縞萎縮病に強い新品種「タマイズミＲ」の栽培実証ほを設け、生育調査を行ってきた。

令和５年産「タマイズミＲ」は、５月 31 日～６月６日に収穫作業が行われた。平年より８日早い５月 29 日に梅雨入りし、雨の合間を縫った収穫作業ではあったが、順調に作業が進められた。

今後、農林事務所は収量品質調査を実施、品種転換に向けた各種データの収集を進めていく。

（地域支援第一係・遠藤　るみ子）

■水稲　「清流のめぐみ」田植え終了

【ロボット田植え機による作業の様子】

水稲品種「清流のめぐみ」は県農業技術センターで育成された倒伏や高温障害に強い特性を有する品種である。実需者と結び付いた「売れる米づくり」の取り組みとして、県内米穀業者との契約栽培による生産が行われており、令和５年度岐阜管内では８法人経営体で約８ha が作付されている。

本年は出芽の不揃いや育苗期間中の馬鹿苗病の発生などに苦労した生産者があったものの、田植えは４月 29 日スタートし、６月 20 日に無事終了を迎えた。本巣市内の法人経営体では、「ロボット田植え機」による田植作業が行われ、苗や肥料の補給以外は無人で作業が進む様子を関係者が道路から確認した。

今後、農林事務所は「清流のめぐみ」の安定生産とブランド化に向けて、生育調査や肥料試験を進めていく。

（地域支援第三係・神田　秀仁）

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■各務原市にんじん部会　令和５年産冬にんじんの栽培講習を実施

【栽培講習会の様子】

各務原市園芸振興会にんじん部会は６月６日、ＪＡぎふ鵜沼支店で冬にんじん栽培講習会を開催した。

現在、春夏にんじんの収穫作業が進められているが、冬にんじんの播種に向けて、７月から８月にかけて栽培ほ場の準備作業が開始されることから当講習会が開催され、農林事務所は施肥設計、輪作体系導入による連作障害対策、病害虫防除について説明を行った。

にんじん部会のブランド推進委員を務めている生産者のほ場で実施している品種試験や被覆資材等の技術実証の結果を他の生産者に紹介したところ、出席者からは高い関心が示された。農林事務所では実証試験に引き続き取り組んでいく。

（地域支援第二係・足立　昌俊）

■エダマメ　各支店で目揃会を開催

【目揃会の様子】

ＪＡぎふえだまめ部会は６月５日、ＪＡぎふ北島出荷場で島地区の生産者を対象とした目揃会を開催した。えだまめ部会では、トンネル栽培の出荷が始まる６月にＪＡぎふ支店ごとに目揃会を開催し、出荷規格の徹底を行っている。

当日は、生産者 80 名が出席し、市場及び全農担当者から販売情勢、ＪＡ担当者から出荷状況について情報提供が行われた。農林事務所は、今後の栽培管理について説明するとともに、ＧＡＰの取り組み推進に向けて、農薬の安全使用や異物混入対策について説明した。

えだまめ部会は岐阜県ＧＡＰ確認制度に取り組んだ経験があることから、ＧＡＰに関する基礎的な理解がある生産者が多く、熱心に傾聴頂いた。今後、農林事務所は関係者や生産者とともに農薬安全使用や異物混入対策のための支援を継続する。

（園芸産地支援第一係・小森　志保）

■いちご　本巣苺技術部会勉強会の開催

【勉強会の様子】

ＪＡぎふ本巣苺技術部会は６月 12 日、技術部会勉強会を開催した。本巣苺技術部会では、生産者、関係機関全員で議論する形式での勉強会を昨年度から実施している。

当日は、つくばＧＢソリューションの池田英男氏（大阪府立大学名誉教授）から、冬春イチゴ増収のための環境制御技術について講義が行われた。収量増を図るには光合成能力を最大限に高めることが重要であり、そのために必要な環境制御について、植物生理に基づいた説明が行われた。収量増と収益向上を図るには、「データ」を基にした科学的な検討を行って栽培管理することが必要であり、何が必要かを自らで考えて、実践する生産者になって欲しいとの激励がなされた。

今回の池田氏の話をきっかけに、栽培や経営での課題について１人１人が考え、皆で議論し解決していく部会となる様、農林事務所として支援していく。

（園芸産地支援第二係・菊井　裕人、若原　浩司）

■スイートコーン　スイートコーンの出荷目揃え会が開催

各務原市園芸振興会スイートコーン部会は６月 13 日、ＪＡぎふ各務原予冷集荷施設で出荷目揃え会を開催した。

当日は、生産者 15 名、市場担当者が出席し、市場担当者から市場情勢についての説明後、農林事務所から、適期収穫、害虫防除を中心に今後の栽培管理のポイントについて説明した。

農林事務所では、スイートコーンの安定出荷に向けて、栽培管理や病害虫防除等の指導に取り組んでいく。

（地域支援第二係・谷川　千遥）

【目揃え会の様子】

中山間地域を守り育てる対策

■エゴマ　やまがたエゴマ協議会がセルトレイ播種を実施

やまがたエゴマ協議会は、令和４年度に国の「グリーンな栽培体系への転換サポート事業」の採択を受け、鶏糞堆肥を使用した機械化一貫体系によるエゴマの大規模栽培に取組んでいる。農林事務所は同協議会のメンバーとして、事業計画の検討やエゴマの栽培指導、現地調査などを実施している。

５月 18 日から５月 31 日にかけ、セルトレイへの播種作業がリース導入した吸引精密播種機により行われ、約 2,000 枚が播種された。

６月 19 日から小麦作付跡ほ場へのセルトレイ苗移植が行われ、今後農林事務所は栽培指導や現地調査を通じて、山県地域における栽培マニュアル策定を行っていく。

【吸引精密播種機による播種】

（地域支援第三係・山田　奈巳）